横浜市次世代育成支援行動計画 子育て支援シンポジウム

使える!? ヨコハマの子育て支援

ー現在、そして未来ー

■日時　平成 23 年 1 月 23 日（日）13:00～16:00
■場所　横浜市社会福祉センター

◆プログラム

13:00	■かがやけ横浜こども青少年プラン後期計画の概要について 井尻　靖　横浜市こども青少年局企画調整課長
13:20	■パネルディスカッション 「使える！？ ヨコハマの子育て支援　ー現在、そして未来ー」 コーディネーター　高橋　勝　横浜国立大学教育人間科学部教授 横浜市次世代育成支援行動計画推進協議会会長 パネリスト　山田美智子　西区こんにちは赤ちゃん訪問事業訪問員 高村美智子　戸塚区地域子育て支援拠点「とっとの芽」施設長 木村真佐子　横浜子育てサポートシステム緑区支部コーディネーター 伊藤　保子　NPO 法人さくらんぼ(瀬谷区「さくらんぼハウス With」)理事長 田中　博章　横浜市こども青少年局子育て支援課長 中西美和子　横浜市こども青少年局親子保健担当課長
16:00	閉会

◆配布資料

出演者プロフィール		・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1P
パネリスト説明資料	山田美智子	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3P
〃	高村美智子	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7P
〃	木村真佐子	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11P
〃	伊藤　保子	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13P
〃	田中　博章	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15P
〃	中西美和子	

＜別添資料＞

かがやけ横浜こども青少年プラン後期計画＜概要版＞	（パンフレット）
でかけてみよう！親子の居場所	（リーフレット）
横浜子育てサポートシステム	（リーフレット）

主催／横浜市こども青少年局・よこはま一万人子育てフォーラム

OPEN YOKOHAMA

◆出演者プロフィール

コーディネーター

■高橋　勝さん　横浜市次世代育成支援行動計画推進協議会会長、横浜国立大学教育人間科学部教授

＜プロフィール＞
　人間形成論・教育人間学専攻。平成 17 年度より横浜市次世代育成支援行動計画推進協議会会長を務める。
　著書『経験のメタモルフォーゼ』『子どもの自己形成空間』『文化変容のなかの子ども』『学校のパラダイム変換』『情報･消費社会と子ども』など多数

パネリスト

■山田　美智子さん　　西区こんにちは赤ちゃん訪問事業訪問員

＜プロフィール＞
　NPO 法人ワーカーズ・コレクティブ　たすけあい　ぐっぴい所属。西区に生まれ育ち、長女が２歳の時、西区で子育てサークルの立ち上げ、その後「西区子育て支援プロジェクト　にじ」に参加。子育てマップ・情報紙の作成、親子カフェなど、「親子の目線での子育て支援活動」を始める。現在は、西区地域子育て支援拠点「スマイル・ポート」を運営。子どもを真ん中に、親子と地域の「顔の見える関係づくり」をすすめている。小学生２児の母。
　よこはま一万人フォーラム会員。横浜市地域福祉保健計画策定委員。横浜市福祉のまちづくり会議推進委員。

■髙村　美智子さん　　戸塚区地域子育て支援拠点とっとの芽施設長

＜プロフィール＞
　NPO 法人子育てネットワークゆめ代表理事。「戸塚区地域子育て支援拠点とっとの芽」、「おやこの広場ぽっぽの家」を運営。20 数年前わが子たちが入園した戸塚区俣野町にある自主運営幼稚園すぎのこ会での 6 年間の活動から､未就園児の親子への支援の必要性を感じ地域の子育て支援に関わるようになる。
　他に生活クラブ、ＷＥ21 ジャパンなどの活動も行ってきた。一人目の子育てで戸惑いながらも地域に助けられ 3 人の子育てをしてきた。

■木村　真佐子さん　　横浜子育てサポートシステム緑区支部コーディネーター

＜プロフィール＞
　子育て中に参加した、育児講座に刺激を受け、子育てだけの日常からの脱却を目指し、緑区保健センター主催の子育てシンポジウムの運営委員に参加。その事後グループ「グリーンママ」(のちの NPO 法人グリーンママ）で子育てサロンの運営やみどりっこ親子の居場所「はなまる」を立ち上げる。
　平成 14 年 4 月から、横浜子育てサポートシステムの緑区地区リーダーとなる。平成 19 年 12 月、緑区支部が緑区社協からグリーンママに移管後は、コーディネーターとして、サポートシステムの発展に尽力中。2 児の母。

■伊藤　保子さん　　NPO 法人さくらんぼ(瀬谷区「さくらんぼハウス With」)理事長

＜プロフィール＞

子育ては母親だけの役割ですか？こんな疑問をもった４０代主婦８名が出資し、使い勝手のいい保育園を作りたいと起業した際の設立代表。それから１２年、保育園から見える「なんで？？」の解決のために事業種を増やしてきた。事業の拡がりに伴い NPO 法人格を取得し、現在に至る。

主たる活動地域は横浜市の外れに位置し、緑や農の残る地域であり、良い加減のおせっかいの中で比較的自然体で子育てができる地域でもある。設立時のメンバーはそれぞれアラ還となり、法人ミッションの世代伝達が現在の課題となっている。

■田中　博章さん　　横浜市こども青少年局子育て支援課長

＜プロフィール＞

横浜市入庁時は保健所に配属。その後、こども青少年局発足と同時（平成１８年４月）にこども家庭課長を経て、平成２１年４月から現職。地域子育て支援拠点、親と子のつどいの広場、子育てサポートシステム、幼児教育関係などの業務を所管。未就学期の地域における子育て支援の推進に取り組んでいる。

■中西　美和子さん　　横浜市こども青少年局親子保健担当課長

＜プロフィール＞

児童相談所勤務を経て、平成 21 年 4 月から現職。区福祉保健センターこども家庭支援課で実施している母子健康手帳交付（妊婦健康診査）や母親（両親）教室・こんにちは赤ちゃん訪問・乳幼児健康診査等の親子保健関係業務を所管。生まれる前（妊娠中）から乳幼児期の途切れのない支援の充実をめざし、業務の推進に取り組んでいる。３児の母。

西区こんにちは赤ちゃん訪問事業訪問員
山田　美智子

横浜市
こんにちは赤ちゃん訪問事業

横浜市こども青少年局
こども家庭課

こんにちは赤ちゃん訪問員全体研修会資料より引用

こんにちは赤ちゃん訪問事業実績
平成２１年度（Ｈ２１．４．１～Ｈ２２．３．３１）

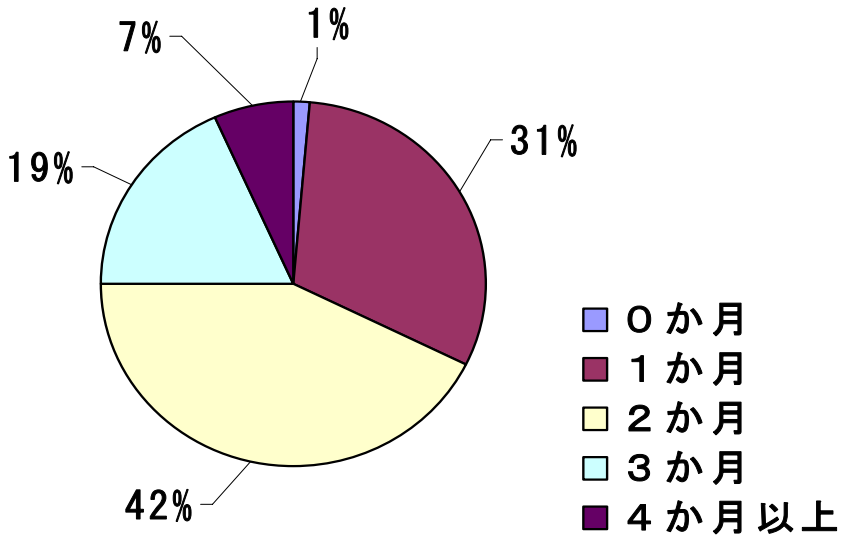
訪問員数：７８９人

訪問件数：２１，０４８件

区への引継ぎ件数：４６６件

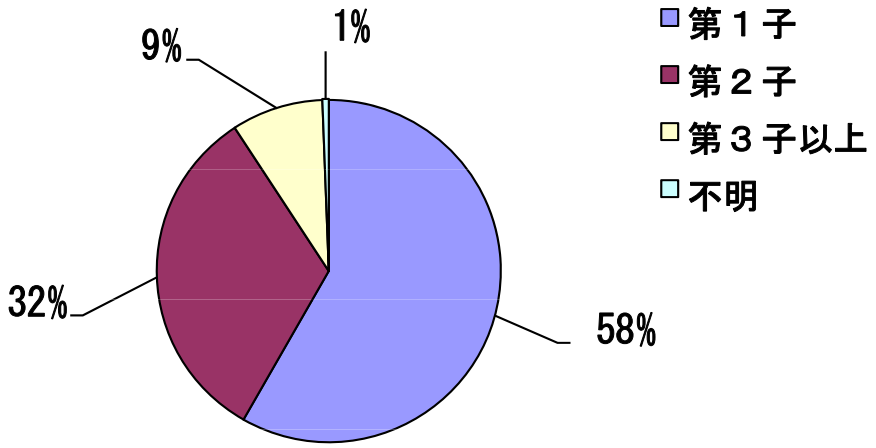
訪問月齢

平成２１年度（Ｈ２１．４．１～Ｈ２２．３．３１）



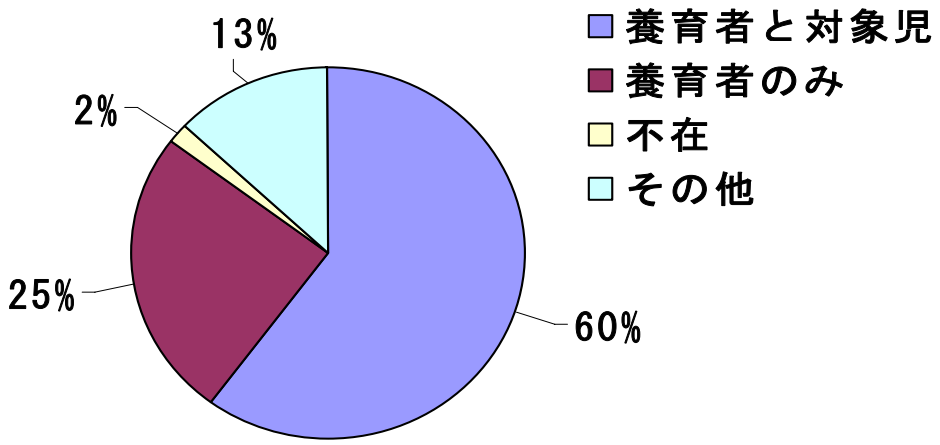
出生順位

平成２１年度（Ｈ２１．４．１～Ｈ２２．３．３１）



面会状況

平成２１年度（Ｈ２１．４．１～Ｈ２２．３．３１）



区福祉保健センターへ引き継いだ事例

赤ちゃんのこと

便秘・体重増加・嘔吐・
反り返り・足の痙攣
・皮膚トラブル・口蓋裂・
・聴力・など

育児に関すること

予防接種・赤ちゃん教室・
・医療機関情報

訪問員が感じて

育児疲れが感じられた
接し方が気になる

兄弟のこと

赤ちゃん返り
・言葉が遅い
・たたく

お母さんの状態

育児不安がつよい
無表情・疲れ気味・
涙ぐむ

事業への要望

母親教室・
赤ちゃん教室

定期連絡会

講演会(研修)

ミニ講座

ロールプレイ

グループワーク

先輩ママの講話

施設見学

報告・連絡事項
配付物確認

各区の例

●講演会・研修
講師：保育園園長・センター長(医師)・臨床心理士・
子育て支援拠点所長等
テーマ：最近の子育て事情、産後の心の問題、傾聴の大切さ・
小児救急　等

●ミニ講座
講師：助産師、保健師　等
テーマ：個人情報・予防接種・熱中症・災害対策・母子訪問　等

●グループワーク
内容：地区の特徴・訪問で困ったこと・楽しかったこと・
嬉しかったこと・訪問時の工夫・地域情報の交換　等

●ロールプレイ：　電話時・訪問時

●施設見学：赤ちゃん教室・子育てサロン

●配付物：区の子育てガイドブック・Q＆A・イベントのチラシ

シンポジウム資料

ＮＰＯ法人　子育てネットワークゆめ

高村　美智子

１、親と子のつどいの広場事業とは

- NPO法人や子育て支援活動団体が担い、親子が気軽に集い交流する場や相談、情報提供を行っている。
- 横浜市社協からの委託。
- 広さは40㎡以上　週3日以上開設
- 平成22年度現在　市内30カ所
- 平成26年度目標　54か所

2、地域子育て支援拠点とは

- 子育て支援の総合的拠点として親子が遊びながら交流できる常設の居場所の提供、子育て向けの相談、情報提供、ネットワーク、人材育成を行う
- 各区に1カ所　広さは平均300平米
- 区と協働で行う

3、NPO法人　子育てネットワークゆめ

1974年～　　戸塚区俣野町ドリームハイツで3歳保育、4，5歳保育、1～3歳の公園遊びと自主的な3団体がそれぞれ子育て支援の活動を行っていた。

1999年　　3団体が連携し「子育てネットワークゆめ」を結成

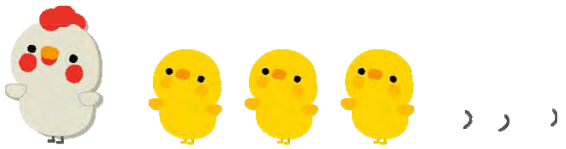
2002年4月　横浜市泉区　**おやこの広場ぽっぽの家**　開所

2002年11月　親と子のつどいの広場事業受託

2009年3月　**戸塚区地域子育て支援拠点とっとの芽　開所**

4　親と子のつどいの広場事業
「おやこの広場　ぽっぽの家」

- 月～土(土は月1回)10時～16時
- スタッフ6名　とボランティア21名で運営
- 登録組数71組　毎日平均して10組
- 今年度で9年目



NPO法人　子育てネットワークゆめ

4　親と子のつどいの広場事業
「おやこの広場　ぽっぽの家」

≪特徴≫

- 戸塚区と泉区の区境　まだ田んぼや森がある
- 地域に密着している。スタッフも利用者も同じ地域に住んでいる。
- 日常的にも関わりがあり、幼稚園、学校に行ってもつながりがある。

NPO法人　子育てネットワークゆめ

５　戸塚区地域子育て支援拠点とっとの芽

- 火曜日～土曜日　10時～16時
- 開所から1年10カ月　登録数約5,700人

  年間利用者数約330,00人（H22年度）
- 一日平均80組

NPO法人　子育てネットワークゆめ

５　戸塚区地域子育て支援拠点とっとの芽

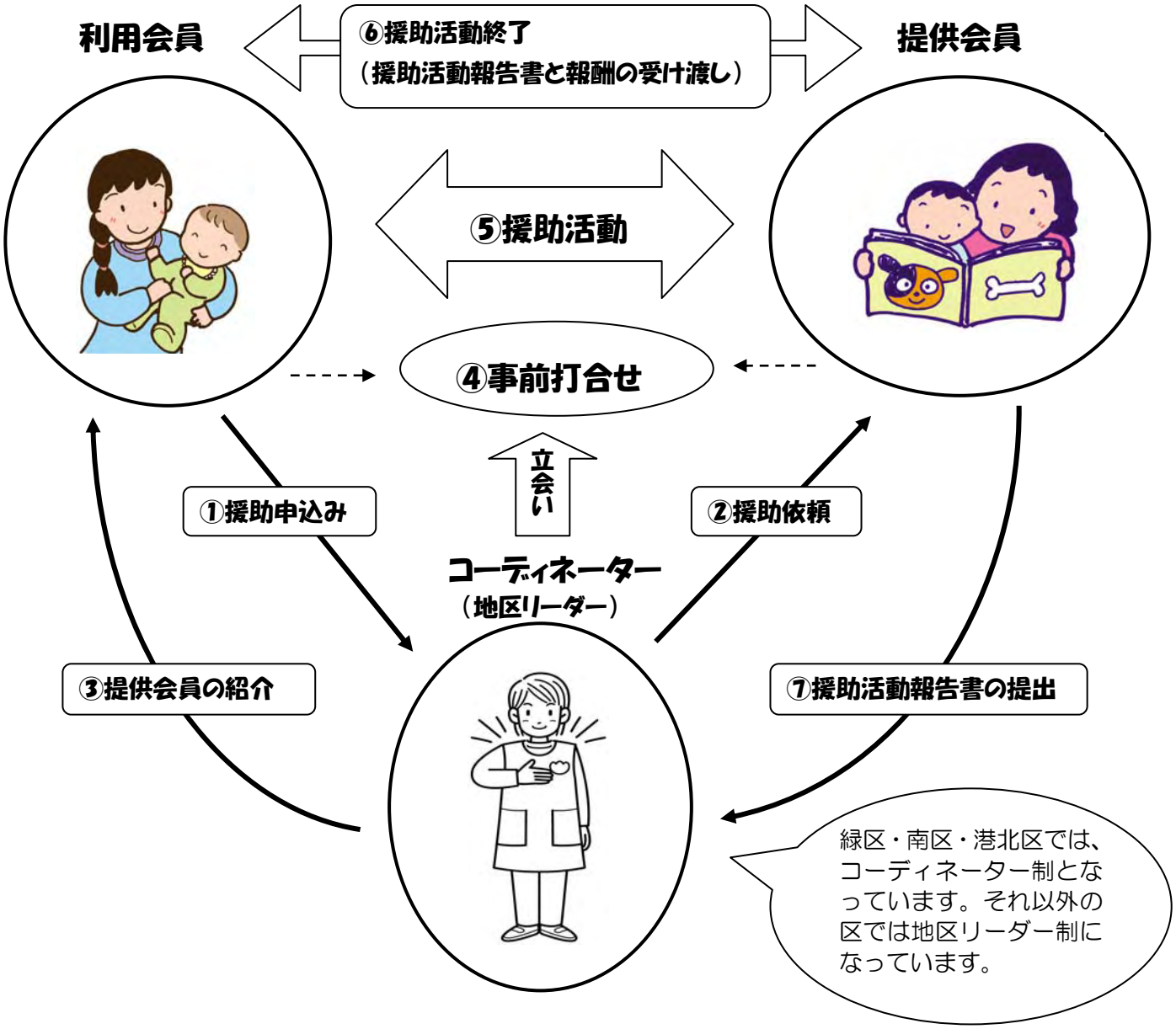
≪特徴≫

- とっとの芽のある東戸塚周辺は、マンション群が広がっていて、子育て世代を中心に人口は増加傾向。
- 転勤族が多い地域性。　「子どもとふたりで家にこもっていた」「ここに帰ってくるとホッとする」という声が多く聞かれる。
- 父親の利用は月に延べ70人以上、他にも中国、韓国、フィリピン、アフリカなど色々な国籍の方が利用。

NPO法人　子育てネットワークゆめ

援助活動開始までの流れ

横浜子育てサポートシステム緑区支部コーディネーター
木村真佐子



① 援助活動の申込み（利用会員さんから緑区支部へ電話で 982-3521）
利用日や時間、条件などをできるだけ具体的にお伝えください。

② コーディネーター（地区リーダー）が提供会員さんを探します。
ご自宅などのお近くの方から打診します。

③ 提供会員さんのご紹介
事前打合せの日時を、コーディネーターが調整します。
（地区リーダー制の区では、利用・提供会員両者で日時を決めます。）

④ 事前打合せ
利用会員さん、お預かりするお子さん、提供会員さんのお顔合わせを、コーディネーター立会いのもとに、お子さんを預かる場所で行います。利用会員は事前打合せ票を記入し、提供会員に渡します。
※地区リーダー制の区では、当事者同士で行い、地区リーダーは立ち会いません。

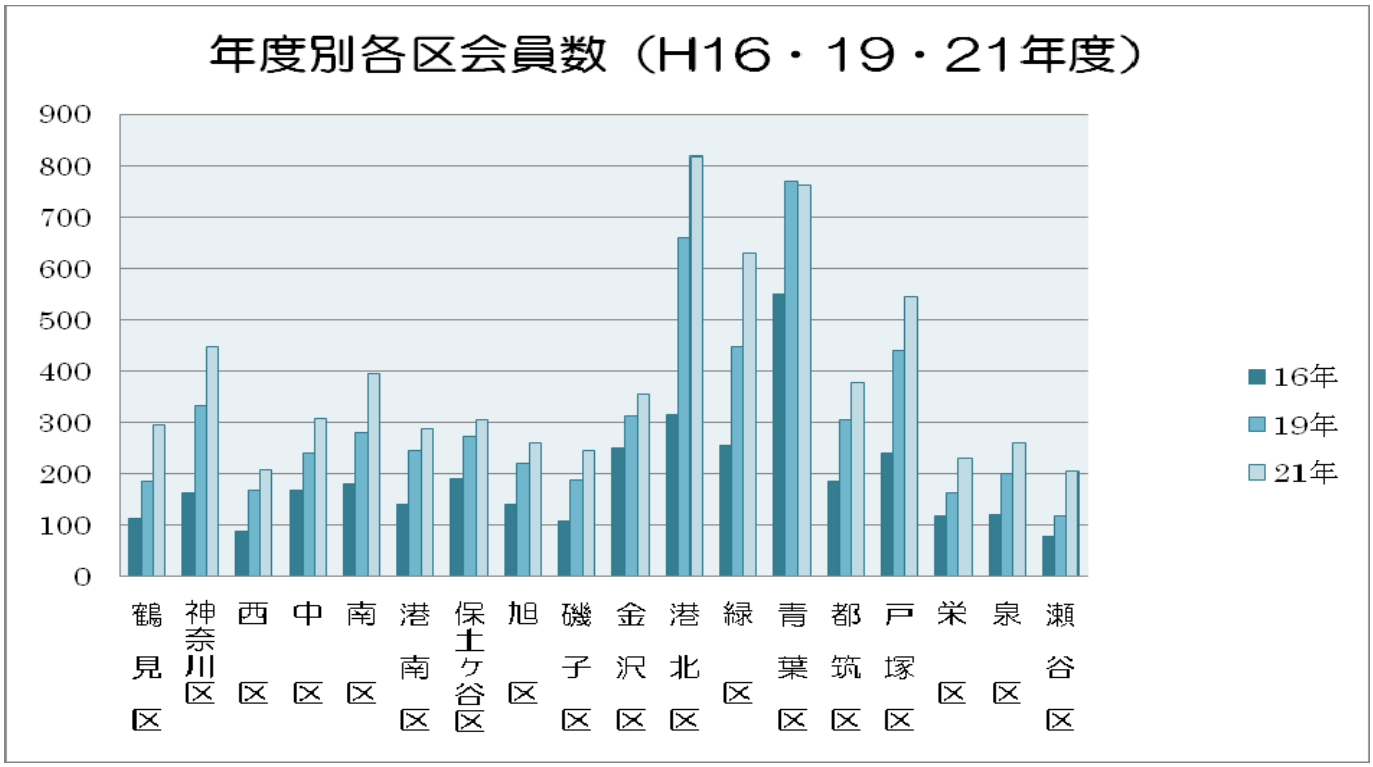
⑤ 援助活動スタート

⑥ 援助活動終了
援助活動報告書をもとに、活動時間、報酬を確認し、利用会員さんは提供会員さんに報酬を支払います。
提供会員は、援助活動報告書（2 枚目）を　利用会員さんに渡します。

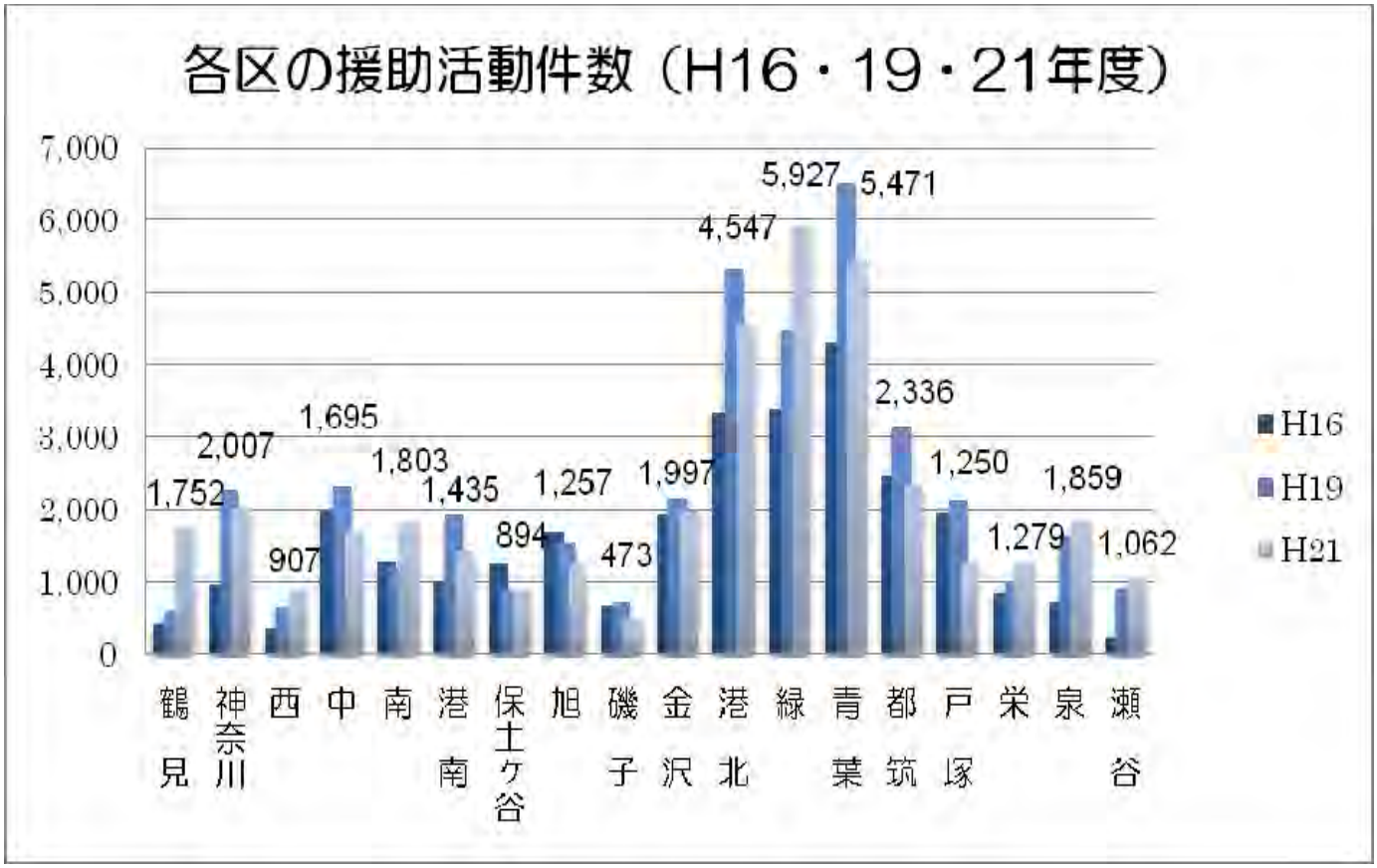
⑦ 提供会員さんは、月ごとの援助活動報告書（3･4 枚目）を、緑区支部（地区リーダー）へ提出します。

横浜子育てサポートシステム統計

・各区の会員数（横浜市全区合計 16 年度 3,420 名→21 年度 6,943 名）



・各区の援助活動件数
（横浜市全区合計 16 年度 28,811 件→21 年度 37,951 件）



多機能支援の中のひろば機能

ＮＰＯ法人　さくらんぼ
理事長　伊藤　保子

Ⅰ　出発は横浜保育室　　～法人紹介～　　（別紙）

保育園では対応できないニーズがいっぱい。
そのニーズに合わせて事業展開をせまられた１２年間。
ひとつの支援サービスでは足りない。→　いくつかのメニューを繋ぐ。
多機能支援を繋いでいる。＝　相談電話・派遣サポート・ひろば

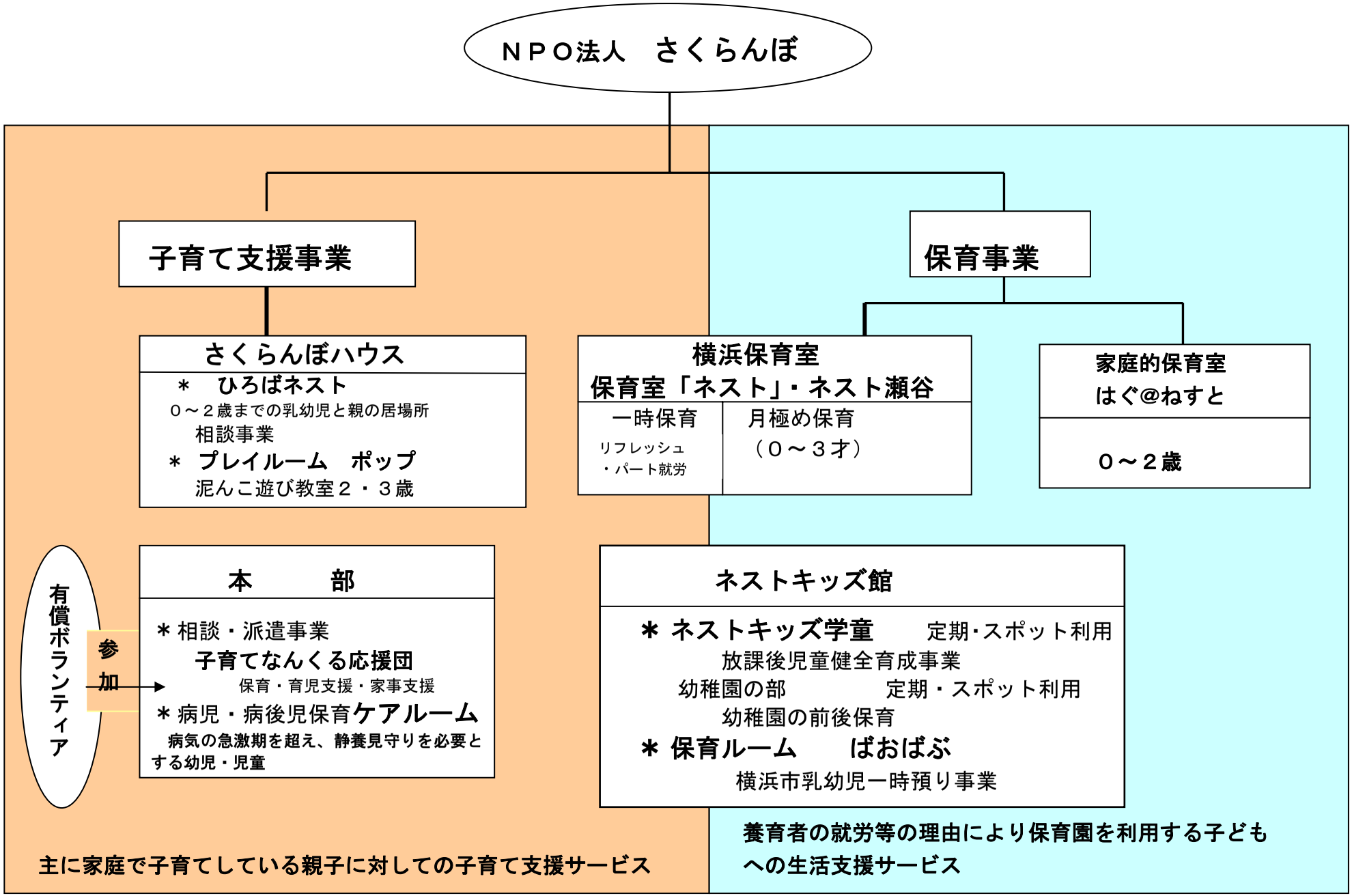
Ⅱ　ひろばの持つ可能性　～ひろばだからできること～

親と子のつどいの広場事業「ひろばネスト」　　会員制　（入会金２０００円）

① 全く知らない集団ではない。ひろばの中で疑似コミュニティーを形成。
「～してほしい」「～～してあげる」「手伝って・・・」と言葉に出せない。
第３者（スタッフ）の介在の中で会員同士を繋ぐ。適度な援助。
ちょっとした外出の間、子どもをひろばにいる会員とスタッフで見ている。
⇒　２時間くらいまでならほとんど問題なく対応できる。（要件不問）

② 相談　　親や子どもの特徴・親子関係をある程度の時間をかけて把握。
スタッフとの信頼関係。
必要があれば保育園や「どろんこ教室」「派遣サポート」に繋ぐ。

③ 一時預かり　保育園での一時預かりの中で、ひろばで預かりを行う方が
その親子のニーズを充たせるというケースあった。
⇒　「つどいの広場」連絡会Ｃブロック主催で
ひろばでの一時預かりについての勉強会を開催。
⇒　横浜市子ども青少年局との学習会開催。
（内容点検・要望提出）
⇒　平成２２年１０月より希望する団体のみ
委託内容に追加される。


ＮＰＯ法人　さくらんぼ
子育て支援事業
保育事業
さくらんぼハウス
＊　ひろばネスト
０～２歳までの乳幼児と親の居場所
相談事業
＊ プレイルーム　ポップ
泥んこ遊び教室２・３歳
横浜保育室
保育室「ネスト」・ネスト瀬谷
一時保育
リフレッシュ
・パート就労
月極め保育
（０～３才）
家庭的保育室
はぐ@ねすと
０～２歳
有償ボランティア
参加
本　　部
＊相談・派遣事業
子育てなんくる応援団
保育・育児支援・家事支援
＊病児・病後児保育ケアルーム
病気の急激期を超え、静養見守りを必要とする幼児・児童
ネストキッズ館
＊ ネストキッズ学童　定期･スポット利用
放課後児童健全育成事業
幼稚園の部　定期・スポット利用
幼稚園の前後保育
＊ 保育ルーム　ばおばぶ
横浜市乳幼児一時預り事業
主に家庭で子育てしている親子に対しての子育て支援サービス
養育者の就労等の理由により保育園を利用する子どもへの生活支援サービス

地域で子育てしやすい環境の整備
【乳幼児期の子育て支援施策の現状】

※人口・施設数等はH22.4.1の実績

妊婦	0歳児 (32,047人)	1歳児 (32,529人)	2歳児 (32,768人)	3歳児 (32,574人)	4歳児 (31,398人)	5歳児 (32,268人)	0～5歳児計 (193,584人)

親子保健

- 不妊相談
- 特定不妊治療費助成
- 母子健康手帳交付
- 子育てｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸ「どれどれ」配布
- 母親教室
- こんにちは赤ちゃん訪問
- 母子訪問指導
- 産前産後ケア事業
- 妊婦健診
- 4か月児健診（受診率95.2%）
- 1歳6か月児健診（受診率94.4%）
- 3歳児健診（受診率93.4%）
- 視聴覚検診 一次検査
- 育児支援家庭訪問
- 妊産婦歯科相談
- 医療機関乳幼児健康診査
- 1歳6か月児歯科健診事後指導
- 乳幼児歯科相談
- 先天代謝異常症等検査

相談と交流

- 地域育児教室 各区役所で
- 自主的な子育てグループ
- 子育て支援者のグループ活動支援
- 子育て支援者　会場数 164か所
- 子ども･家庭支援相談事業　（0～18歳）
- 保育所子育てひろば
  （市立） 育児支援センター園24か所、その他の市立保育所76か所
  （民間） 常設園9か所、非常設園116か所
- 地域子育て支援拠点　市内15か所
- 親と子のつどいの広場事業　市内28か所
- 私立幼稚園はまっ子広場事業　市内25園

地域での預かり

- 乳幼児一時預かり事業　市内4か所
- 横浜子育てサポートシステム

子育て支援に関わる地域施設

- 地区センター 82か所
- コミュニティハウス 110か所
- 地域ケアプラザ 119か所
- 各区独自の子育て支援

子育て家庭応援事業（愛称「ハマハグ」）

親と子の心の健康づくり、養育支援
医療機関等と連携して、妊娠の時点から福祉保健センターが一貫して健康診査や保健指導を行っています。

仲間づくり（その①）
初妊婦や第１子の養育者などを対象に，育児の基本的な知識を学ぶとともに、育児不安の解消や地域での仲間づくりの動機付けとなる教室を開催。
自主的な子育てグループには、活動が継続できるように運営のアドバイス等の支援も行っています。

身近な地域での相談
子育てグループに属していない養育者や転入等で身近な相談相手がいない養育者は、地域のなかで孤立しがちです。このような養育者が、日常の育児不安を解消できるように、子育て支援者が身近な相談に応じています。
また、情報交換や仲間づくりの場にもなっています。

子育てに関する相談
福祉保健センターでは保健・教育・福祉の各分野のスタッフが一体となり、乳幼児から学童期・思春期までの幅広い子ども･家庭支援相談を実施しています。児童相談所、教育総合相談センター、乳幼児家庭教育センター、女性フォーラムなどでも個別の相談に応じています。
また、市立保育所と同様に民間保育所でも育児相談を実施するとともに、育児講座や在園児との交流保育、園庭・園舎の施設開放などを行っています。

地域子育て支援拠点
地域の子育て支援の中心的な役割を持ち、子育て情報の集約・発信、子育て相談や親子のつどいの場の提供、人材育成、ネットワークなどを行います。

仲間づくり（その②）、つどいの場
市民活動団体が運営する「親と子のつどいの広場」及び私立幼稚園が運営する「幼稚園はまっ子広場」の運営経費の一部を助成しています。
つどいの広場や保育所子育てひろばでは子育て中の親子に対し子育て相談や親子の交流の場、地域の子育て関連情報の提供などを行っています。
はまっ子広場では幼稚園の終了後、園庭・園舎を幼稚園児や地域の幼児が保護者とともに過ごせる場、また保護者同士が交流できる

必要なときに理由を問わない子どもの預かり
リフレッシュ、通院、家事、就労など理由を問わず、就学前の児童を一時的に預かります。

地域の市民同士の支え合い
「子育ての援助を受けたい人」と、「子育ての援助を提供したい人」が会員として登録し、提供会員の家に子どもを預けたり、保育園等への送迎などの子育て支援を実施しています。市民同士の連携による地域ぐるみでの子育て支援への発展を目指します。

地域の子育て支援に関わる施設
地区センターのプレイルームは幼児のための室内遊び場。気軽に立ち寄り自由に遊べます。地区センターによる親子向けの自主事業も行われています。コミュニティハウスは学校に併設され、グループ活動に和室や研修室が利用できます。地域ケアプラザでは子育て相談、講座など取り組んでいます。

各区の特性に応じた子育て支援事業
各区ではその特性、区民ニーズに基づき、様々な独自の子育て支援事業を実施しています。

子どもとのおでかけ支援
地域社会全体で子育てをあたたかく見守り、応援する事業です。小学生以下の子どものいる家庭や妊娠中の方が、協賛店・施設で登録証（ハマハグカード）を提示すると、ちょっとした心配りから、設備･備品の利用、割引･優待など、子育てを応援するさまざまなサービスを受けられます。

【その他統計データ】

○女性の初婚年齢
平成元年：25.5歳　　平成21年：28.3歳

○合計特殊出生率（15～49歳の女性が一生に産むこどもの数）
平成２年：1.46人　　平成21年：1.27人

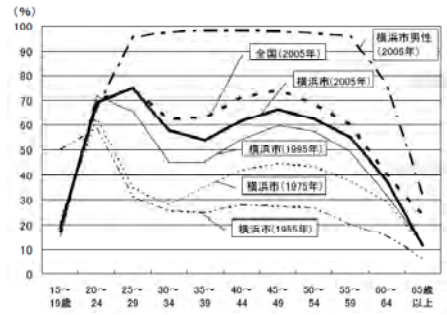
○1年間の出生児数
平成元年：32,824人　　平成21年：32,111人
（人口：平成２年：3,220,331人　平成16年：3,555,473人　平成21年：3,671,776人）
※各年10月1日人口ニュース

○就学前児童数（0歳～5歳児の計）
平成11年：194,210人　　平成16年：201,626人　　平成21年：194,638人
※各年3月31日住民基本台帳登録者

○母子健康手帳交付
平成21年：37,853件　（妊娠中：37,030件、出産後：307件、再交付等：516件）

○不妊（日本産婦人科学会 2006年）
不妊カップルの割合　7組に１組（推計）
出生児の1.8%が生殖補助医療で出生　（横浜市推計　580人）

○第1子を出産した時の母親の年齢

平成６年	平成21年
１位 25～29歳	１位 30～34歳
２位 30～34歳	２位 25～29歳
３位 20～24歳	３位 35～39歳
４位 35～39歳	４位 20～24歳

○年齢階級別女性の労働力率の推移　（総務省国勢調査17年度）